# かかわり合いながら、学びを深める子どもの育成

(3年計画の2年次)

## 校 長 横 濵 誠 一

# 1 研究主題について

本校は、「明るく思いやりのある子」「めあてをもって学ぶ子」「健康でたくましい子」を教育目標に掲げ、徳・知・体の調和のとれた人間性豊かな児童の育成のため、「心の教育」を基盤とし、個を生かしながら「生きる力」の育成を推進してきた。

過去2年間、道徳の授業実践を通して「やり抜く力と思いやりの心をもつ児童」の育成に努めてきた。その成果として、以下の2点を挙げることができる。

- ①問題を焦点化したり終末部分で学習した価値について児童に自分事として考えさせたりする ための発問や、考えを深めたり共有したりするための問い返しの仕方を工夫することで、児 童が主体的に考え、学習の深まりをより実感させることができた。
- ②授業者が意図する学習展開に応じて構造的な板書の仕方を工夫することで、児童が価値の関係性について視覚的に捉えることができるようになった。また、その板書を手掛かりに自分の考えを振り返り、表現する力も高まってきている。

一方、道徳の授業において積極的に自分の考えを発表することができずに、聞き手に回ることが多い児童が一定数見られたり、児童同士の交流でもあまり思考の深まりが認められなかったりする場面も見られた。

そこで、新学習指導要領が本格実施となり、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善が求められる今年度は、これらの成果と課題を踏まえ、他教科・領域でも、問題を焦点化したり共有したりする発問や板書構成、対話のさせ方などを工夫し、「かかわり合いながら、学びを深める子どもの育成」を目指したいと考えた。

## 2 研究のねらい

児童が共通の問題意識をもち、教師や児童または自己との対話を通して、学びを深める授業づくりの工夫について、授業実践を通して明らかにする。

#### 3 研究仮説

国語科の授業において、問題を焦点化し共有するための発問や、他者または自己との対話の させ方について工夫することで、ともにかかわり合い、学びを深める児童を育成できると考え る。

#### 4 研究内容

(1) 授業構成の工夫

ア 問題を焦点化し、共有する発問の工夫

(2) 思考を伴う言語活動の充実

ア 考えを表現する場や話し合う場の位置づけ

イ 振り返りの内容

## 5 研究の経過

(1) 研究の仮説に基づく授業研究

月	日	学年・題材名・授業者等
1 0	1 4	第1回 授業研究(下学年ブロック)
		「食べ物のひみつを教えます」
		3年1組 授業者 教諭 近藤 唯華
1 2	2	第2回 授業研究(上学年ブロック)
		「『鳥獣戯画』を読む 日本文化を発信しよう」
		6年2組 授業者 教諭 近藤 純子

# (2) 一般研修

月		<b>山</b>
Н	- 日	内 容 等
5	1 2	特別支援研修会
		「指導上配慮を必要とする児童に関する共通理解」
		講師:本校生徒指導部
6	9	アセス研修会
		「アセスを活用した児童の支援について」
		講師:本校生徒指導部
6	3 0	一人1台端末活用研修会
		「クロムブック各教科での活用法について」
		講師:本校視聴覚部・6学年担任
7	1 6	保健安全研修会
		「食物アレルギー・AEDについて」
		講師:東消防署鮫分署 沢田 信悟 氏
		関川 真裕 氏
		立崎海平氏

# 6 研究の成果

- (1) 説明的な文章の教材を中心に、導入部分での発問や教材文の提示の仕方を工夫することにより、思考を揺さぶり課題解決に取り組もうとする意欲につながった。
- (2) 「相手意識」を持たせたり「キーワード」を確認させたことにより、伝え合う場面で内容が焦点化され、言語活動の充実につながった。
- (3) 導入の段階で、本時の「まとめの形を示したこと」や「これまでの学習を振り返らせたこと」により、児童に見通しをもって学習活動に取り組ませることができた。

#### 7 研究の課題

- (1) 互いの考えを伝え合い、かかわり合いながら学びを深める児童の育成を目指し、児童の思考に沿った授業構成に取り組むなど、さらに実践を重ねていく必要がある。
- (2) 文章をまとめさせる活動では、具体的な手本を示す等の手立てを講じながら、6年間を見通した段階的な指導に取り組むことが必要である。

(記入者 戸舘 典子)